

# 「ランサムウェア時代のサイバーセキュリティ」

— 脅威動向・人材・運用から考える実践的対策 —

- サイバーセキュリティの脅威動向
- サイバーセキュリティの人材育成
- サイバーセキュリティの脅威からの防御

講 師	(座長 —— 総合司会) 東京大学 名誉教授	齊 藤 忠 夫 氏
	立命館大学 教授 デジタル・フォレンジック研究会 会長	上 原 哲太郎 氏
	情報セキュリティ大学院大学 学長	桑 名 栄 二 氏
	株式会社NTTデータ先端技術 セキュリティイノベーション事業部 担当課長	堀 茂 人 氏

(講演順)

事務局 ハイテクノロジー推進研究所 〒150-00036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F TEL 03(6416)0190(代) FAX 03(6416)5351

## 「マルチメディア推進フォーラム」のご案内

明日の社会発展をリードする情報通信を目指して

情報通信技術が人類の新しい生き方を作り出し、新しい社会を作り出していることは、21世紀に入ってから一般の人々を含め広く認識されるようになった。歴史的にも、人間は近くにいる人々との対話によって協力関係を構築し、グループで力を発揮することによって世界を変化させてきた。通信技術は対話の範囲を広げその能力を強化している。

マルチメディア推進フォーラムは日本の情報通信の発展のために、新しい技術とサービス、その社会的対応と法制度などを多角的に議論するフォーラムである。1990年ころから準備を進め、1994年からは現在の名称となって多くの方々の支援を得て、独占から競争へ、電話からインターネットへ、固定から携帯への変化をとらえ様々に論じてきた。特に情報通信ネットワークのサービスが競争環境で行われるようになった今日、競争状況のなかでなお、ネットワーク事業者は接続されるネットワークについて相互に理解し協力しなければサービスは成立しない。そのためには多くの事業者が相互に理解するチャンネルをオープンに持つことが不可欠であり、本フォーラムでの議論はネットワークサービスの円滑な発展のためにも貢献していると考えている。

通信技術はその発生以来、人と人が交信する技術として発展してきたが、21世紀に入り世界のすべての人が端末を持つようになり、市場は飽和してきた。また通信端末は長く固定端末であったが、携帯端末が主流を占めるようになってきた。このような展開は20世紀には見られなかったことで、21世紀に入ってからの変化は急激である。コンピュータに代表される情報技術は70年前に実現したが、ムーアの法則による超小型化の進展によって社会の隅々に情報処理技術を広げてきている。コンピュータの能力は高まり、大量情報の取り扱いによって、過去においては取り扱いが困難であった巨大な情報に適用することにより、いままでも気が付かなかった現象を分析し、われわれの知識を増やしつつある。このような技術は、すべての社会活動の基礎として広く産業化され、社会化されるようになってきている。

多くの情報は社会の様々な場面で発生する。それぞれの場面には多様な産業がある。家庭では家庭用の機器産業がある。鉄道では交通サービス産業がある。エネルギーを供給する電力産業、医療事業、自動車産業など多様な産業も情報処理と通信の技術を活用しながらサービスを展開しつつある。このような技術における通信はM2M通信（機械と機械の通信）と呼ばれるが、多様な背景を持つ技術のM2M通信について、その初期には産業分野ごとに通信ネットワークを構築する議論も稀ではない。しかし、各分野が独自に情報通信設備を構築することは現実的でない。M2Mネットワークの本質を理解しつつ、共通の通信インフラストラクチャを構成することは情報通信産業に課せられた課題である。同時に情報通信産業は個々のアプリケーションを形成する活用技術について、その特質を理解しなければならない。そのためには、技術を技術としてだけ論ずるのでは不十分である。技術を国際的視野から、社会的な側面を含めて分析し、関連する産業、法制度との整合性を含めて理解することが重要である。時には産業構造の変革、法制度の見直しを考えることも話題になろう。

マルチメディア推進フォーラムは、情報通信技術の多様な発展について論じつつ、新しい市場の特性を理解した幅広い問題を考慮しながら、情報通信事業とサービスの将来を論じたいと考えている。

ICTはますます多様化し、産業としても社会としても重要性を増している。社会のICT化はその社会が国際的に競争力を維持するための基本的要素となっている。マルチメディア推進フォーラムはそのための技術、社会、普及の条件等を幅広く討議し、競争力のある社会を形成する方策について議論を進めている。今日に至る情報通信技術の変革期の中で、その適切な発展のために当フォーラムの果たして来た役割は大きい。このような役割は今後ますます大きくなると考えている。皆様のそれぞれの活動の発展のためにもマルチメディア推進フォーラムに対する御支援をお願いする次第である。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門にご回覧下さいますようお願い申し上げます。

■ 「マルチメディア推進フォーラム — PART 1010 — 」開催内容  
(主催)マルチメディア推進フォーラム

テーマ 「ランサムウェア時代のサイバーセキュリティ」  
— 脅威動向・人材・運用から考える実践的対策 —  
日時 2026年 6月 26日 (金) 13時00分～16時50分

時間	講演内容	講師
<p>(本フォーラムの趣旨・論点)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● サイバーセキュリティの脅威動向</li><li>● サイバーセキュリティの人材育成</li><li>● サイバーセキュリティの脅威からの防御</li></ul>		
<p>近年、ランサムウェア攻撃は高度化・組織化が急速に進み、企業、自治体、医療機関、教育機関など、あらゆる組織において深刻な被害が発生している。その影響は単なる情報システムの停止にとどまらず、事業継続の断絶、社会的信用の失墜、さらには公共サービスの維持にも及び、通信、医療、行政といった社会インフラ全体に重大なリスクをもたらしている。国内外で被害は急増しており、通信事業者、製造業、医療機関、地方自治体などを標的とした攻撃が相次いでいる。</p> <p>攻撃手法も年々進化しており、標的型メールやVPN機器への侵入を起点として、クラウド環境やOTネットワークを経由した内部拡散、重要データの暗号化および恐喝に至るまで、巧妙化・自動化・組織化が進展している。このような状況の下、企業や組織に求められる防御戦略は、「侵入を完全に防ぐ」ことを前提とした考え方から、「侵入を前提として被害を最小化し、事業継続を守る」考え方へと大きく転換しつつある。</p> <p>もはやサイバーセキュリティは、個別技術や単一製品の導入のみで対応できる課題ではない。国際的な脅威動向の把握、専門人材の育成、そして現場における運用・監視体制の確立を、統合的かつ継続的に進めることが不可欠である。近年は、EDR/XDR や AI 分析を用いた検知・封じ込め技術、MDR やマネージド SOC といった運用サービスの活用が進むとともに、クラウド利用を前提とした SASE アーキテクチャや、リアルタイム脅威インテリジェンスを活用した防御型ゲートウェイ、AI による異常検知・対応の自動化など、次世代セキュリティアーキテクチャの採用も加速している。</p> <p>また、攻撃者側でも AI を活用した標的探索や攻撃自動化の研究・実装が進んでいることから、AI が攻撃と防御の両面でセキュリティの主戦場となりつつある。</p> <p>本フォーラムでは、ランサムウェアを中心としたサイバーセキュリティの現状と課題を、「脅威・技術動向 (What is happening)」「人材育成・教育 (Who will handle it)」「ソリューション・運用 (How to defend)」という三つの観点から整理する。とりわけ、AI を活用した攻撃と防御の最新潮流およびそのソリューションについても取り上げ、産学および実務の第一線で活躍する有識者による講演を通じて、技術、人材、運用を分断せずに捉える視点を提供する。これにより、参加者が自組織におけるサイバーセキュリティ対策と事業継続の在り方を再考する契機とすることを目的とする。</p>		
<p>(座長-総合司会) 東京大学 名誉教授 齊藤 忠夫</p>		

<p>13:00 ～ 13:20</p>	<p>(基調講演) 「ランサムウェア時代のサイバーセキュリティ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サイバーセキュリティ脅威の全体像</li> <li>● サイバーセキュリティ人材育成</li> <li>● サイバーセキュリティ脅威からの防御対策</li> </ul>	<p>質 疑 応 答</p>	<p>齊藤 忠夫氏  東京大学 名誉教授</p>
<p>13:20 ～ 14:25</p>	<p>「海外動向を踏まえたサイバーセキュリティ脅威の全体像」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ランサムウェア・サイバー攻撃の実態と捜査・分析の現状</li> <li>● 近年のデジタルフォレンジックの動向</li> <li>● 組織が備えるべき実務的なポイント・運用面の課題</li> </ul>	<p>質 疑 応 答</p>	<p>上原 哲太郎氏  立命館大学 教授 デジタル・フォレンジック研究会 会長</p>
<p>(休憩) (14:25 ～14:35)</p>			
<p>14:35 ～ 15:40</p>	<p>「サイバーセキュリティを支える人材育成と技術動向」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サイバーセキュリティ人材不足の現状と課題</li> <li>● 技術の高度化と人材育成のギャップ</li> <li>● 教育機関としての取り組み (実践教育・リスクリング)</li> <li>● 今後求められるセキュリティ人材像 (技術+運用+倫理)</li> </ul>	<p>質 疑 応 答</p>	<p>桑名 栄二氏  情報セキュリティ 大学院大学 学長</p>
<p>(休憩) (15:40 ～15:45)</p>			
<p>15:45 ～ 16:50</p>	<p>「最先端のサイバーセキュリティ動向～クラウドセキュリティを例に」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ランサムウェアにおける国内の被害状況</li> <li>● NIST CSF (CyberSecurity Framework) 観点のAWSランサムウェア対策</li> </ul>	<p>質 疑 応 答</p>	<p>堀 茂人氏  株式会社NTTデータ 先端技術 セキュリティイノ ベーション事業部 担当課長</p>

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門にご回覧下さいますようお願い申し上げます。

# 「マルチメディア推進フォーラム」委員会

(順不同 敬称略)

**委員長**  
齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授

(運営諮問委員会幹事)

**代表幹事**  
齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授

**副代表幹事**  
服部 武 上智大学 客員教授  
森川 博之 東京大学 大学院工学系研究科電気系工学専攻 教授  
成宮 憲一 一般社団法人 科学技術と経済の会 専務理事

**幹事**  
尾上 誠三 国際電気通信連合 (ITU) 電気通信標準化局長  
川野 真稔 デジタル庁 戦略・組織グループ参事官  
間宮 淑夫 元・内閣官房参与  
渡邊 昇治 内閣官房内閣審議官  
西尾 崇 国立研究開発法人 土木研究所 戦略的イノベーション研究推進事務局 次長

**立川 敬二** ㈱ハイテック推進研究所 取締役・特別顧問  
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

**有賀 寿** 日本放送協会 技術局 局長  
**川添 雄彦** NTT㈱ チーフエグゼクティブフェロー  
**池田 敬** NTT東日本㈱ 代表取締役副社長  
**桂 一詞** NTT西日本㈱ 代表取締役副社長  
**海老原 孝** NTT㈱ 常務執行役員 技術企画部門長  
**佐藤 隆明** ㈱NTTドコモ 代表取締役副社長 CTO、CAIO、CPO  
**伊東 匡** NTTアドバンステクノロジ㈱ 代表取締役社長

**稲葉 陽子** ㈱NTTデータグループ 技術革新統括本部

**中村 元** KDDI㈱  
**宮川 潤一** ソフトバンク㈱  
**石原 直** 東京大学大学院  
**浅見 徹** ㈱国際電気通信基礎技術研究所  
**遠藤 信博** 日本電気㈱  
**新野 隆** 日本電気㈱  
**木内 道男** 日本電気㈱

**高木 康志** 富士通 (株) SVP システムプラットフォームBG エグゼディレクター  
**石田 貴一** ㈱日立製作所 事業部長  
**伊藤 明男** ㈱HYSエンジニアリングサービス 代表取締役 取締役社長  
**梶村 啓吾** エクシオグループ㈱ 代表取締役社長  
**加茂下哲夫** /アソリューションズ&ネットワーク㈱ 代表執行役員社長

## (主な設立発起人)

**齊藤 忠夫** 東京大学 名誉教授  
**吉川 弘之** 東京大学 元 総長  
**立川 敬二** ㈱ハイテック推進研究所 取締役・特別顧問  
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

**杉本 榮一** 自由民主党 元 政務調査会 調査役

## (最高顧問)

**甘利 明** 元・経済産業大臣  
**金子 一義** 元・国土交通大臣  
**林 芳正** 元・防衛大臣

## マルチメディア推進フォーラム – P A R T 1 0 1 0 – 開催

●日時 2026年 6月 26日 (金) 13時00分～16時50分

●本フォーラムは会員様限定Zoomでのオンラインフォーラムとなります。  
オンラインのみの開催となりますのでご了承の上お申込み下さい。  
(一部、一般受講も受付けておりますのでご希望の方はお問合せ下さい。)

●参加申込要領

●受講料 ¥53,570.- (消費税を含む)

●申込先 事務局 ハイテクノロジー推進研究所 TEL (03)-6416-0190  
〒150-0036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F FAX (03)-6416-5351  
E-mail fm@ahri.co.jp

●申込方法 申込書に所定の事項をご記入の上、FAX又は、Web上  
(<http://www.ahri.co.jp>)にてお申し込み下さい。

●送金方法 銀行振込 みずほ銀行 渋谷中央支店 1554932 (普)  
三菱UFJ銀行 渋谷明治通支店 3504194 (普)  
※領収書のご必要な方は、通信欄にご記入下さい。

●キャンセル フォーラム開催前、6月19日までのキャンセルは可能ですが、お電話にてご連絡お願い  
申し上げます。その後のキャンセルについては、お申し受けできませんのでご了承下さい。その場合は  
代理の方の出席が当日配布の「資料」の送付をもって出席とさせていただきます。

●申込書について ご記入頂いたご連絡先は本フォーラムの事後連絡として使用させていただきます。  
尚、今後開催されるフォーラム等のご案内を配信(又は送付)させていただきますが、今後 弊社からのご案内を停止される方は、事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

きりとり線

## 「マルチメディア推進フォーラム – P A R T 1 0 1 0 – 申込書

(申込日) 月 日

会社名		TEL ( ) -	
		FAX ( ) -	
		E-mail:	
会社住所	〒		
NO	受講者・所属・役職	受講者氏名 (ふりがな)	
		-----	
		-----	
支払方法	●銀行振込 ( ) 銀行 ●年 月 日振込予定	通信欄	請求書一 要・不要